

事後評価結果（平成18年度採択）

番号	研究課題名	研究代表者	評 価
18-1	道路の整備・維持管理費用、環境費用を考慮した受益者負担の仕組みに関する研究	一橋大学大学院 教授 根本 敏則	B
<p><研究の概要></p> <p>道路整備に係わる新しい受益者負担の仕組みを構築するため、諸外国の制度との比較分析、費用・負担の実態整理を行い、より柔軟な有料道路制度、対距離課金の提案を行うことを目的とする研究であった。</p> <p><主な研究成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 対距離課金制度の導入の意味づけの整理 ・ 対距離課金による交通需要管理とモデルの構築 ・ 対距離課金による道路インフラ最適水準とモデルの構築 ・ 欧米における対距離課金の導入事例と動向の整理 <p><事後評価結果></p> <p>成果の活用には検討課題が残っているものの、重要な論点として道路の整備・維持管理に対する受益者負担の仕組みを総合的に取りまとめるとともに実務への示唆を与えており、研究目的は概ね達成され、研究成果があったと評価する。</p> <p><参考意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 受益者負担により道路のサービスレベルとその維持管理レベルを数値的基礎データとして把握し、ステークホルダーに分かりやすい成果へと高めることを期待する。 ・ 課金手法は、課金のコスト、手間、確実性との兼ね合いを合わせて考える必要があるので、今後、それらの研究がされることを期待する。 			